

令和2年2月

令和元年（平成31年）中における山岳遭難の概況



静岡県警察本部  
地域部地域課

## 1 令和元年（平成31年）中における静岡県内の山岳遭難発生状況

### (1) 発生件数等

区分	発生件数 (件)	(人)	遭 難 者 数					
			死亡	行方不明	負 傷		無事救出	
					重傷	軽傷		
県下全体	90 (-33)	108 (-38)	5 (-6)	1 (-2)	24 (+7)	15 (-20)	63 (-17)	
内 訳	富士山	53 (-15)	61 (-24)	2 (-4)	0 (-1)	17 (+6)	10 (-11)	32 (-14)
	南アルプス	12 (-9)	12 (-9)	1 (±0)	0 (-2)	2 (±0)	1 (-7)	8 (±0)
	その他	25 (-9)	35 (-5)	2 (-2)	1 (+1)	5 (+1)	4 (-2)	23 (-3)

※ 括弧内の数字は前年同期比である。

### (2) 特徴

- 富士山での遭難が発生件数・遭難者数とも約6割を占める。
- 昨年と比べて、発生件数・遭難者数とも2割以上減少している。
- 過去5年間では、発生件数・遭難者数とも最少となった。

## 2 山岳遭難の防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、山岳遭難を防ぐためには、以下のような点に留意する必要があります。

### (1) 的確な登山計画と万全な装備品の準備

気象条件、体力、技術、経験、体調等に見合った山を選択し、登山日程、携行する装備品、食料等に配慮し、安全な登山計画を立てる。

登山計画を立てるときは、滑落等の危険箇所や、トラブル発生時に途中から下山できるルート（エスケープルート）等を事前に把握する。

また、登山予定の山の気候に合った服装や登山靴、雨具（レインウェア）、落石や滑・転落時に頭部を守るためのヘルメット、地図、コンパス、行動食等登山に必要な装備品や、万一遭難した場合に備え、助けを呼ぶための連絡用通信機器（携帯電話、無線機、予備バッテリー等）やツェルト（簡易テント）、非常食、ライト等を準備するなど、装備を万全に整える。

なお、単独登山は、トラブル発生時の対処がグループ登山に比べて困難になることが多いことを念頭に、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

### (2) 登山計画書の提出

登山計画書は、家族や職場等と共有しておくことにより、万一の場合の素早い捜索救助の手掛かりとなるほか、計画に不備がないか事前に確認するものであることを意識付け、作成した登山計画書は、一緒に登山する仲間と共有すると共に、家族や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

(3) 道迷い防止

地図の見方やコンパスの活用方法を習得し、登山には地図やコンパス等を携行して、常に自分の位置を確認・把握するよう心掛ける。

なお、GPS機器等位置情報を取得することができる機器を活用することで、より正確な位置を把握することができるため、道迷いの防止や、遭難発生時の迅速な場所特定につながる。

(4) 滑落・転落防止

日頃から手入れされた登山靴やピッケル、アイゼン、ストック等の装備を登山の状況に応じて的確に使いこなすとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

また、滑落・転落する恐れがある場所を通過するときは、滑落・転落や上方からの落石に備え、必ずヘルメットを着用する。

(5) 的確な状況判断

霧（ガス）や悪天候による視界不良や体調不良時等には、道に迷ったり、滑落等の危険が高まることから、「道に迷ったかも。」と思ったら、闇雲に進むことなく、今歩いてきた道（トレース）を辿り、正規の登山道まで引き返すなど、状況を的確に判断するとともに、早めに登山を中止するよう努める。

(6) 開山期における富士登山の注意事項

標高の高い富士山は平地との気温差が大きく、夏期においても山頂付近で低体温症となり救助される者が多発することから、十分な防寒対策が必要となる。（標高が100メートル高くなるごとに気温は0.6度低下するため、海拔0メートルの平地より富士山山頂の気温は約23度低い）

また、富士山では高山病等のおそれがあるため、万全の体調（寝不足、風邪気味を避ける）で登山に臨み、ゆっくりした一定のペースで歩くとともに積極的に水分を取るなど、発病への予防対策も必要となる。

(7) 救助要請

万が一遭難が発生し、自分達で対処しきれないと判断した場合は救助を要請する。

救助・遭難の通報は、家族等を介して行くと、遭難場所を速やかに特定できないため、できるだけ本人が行う。

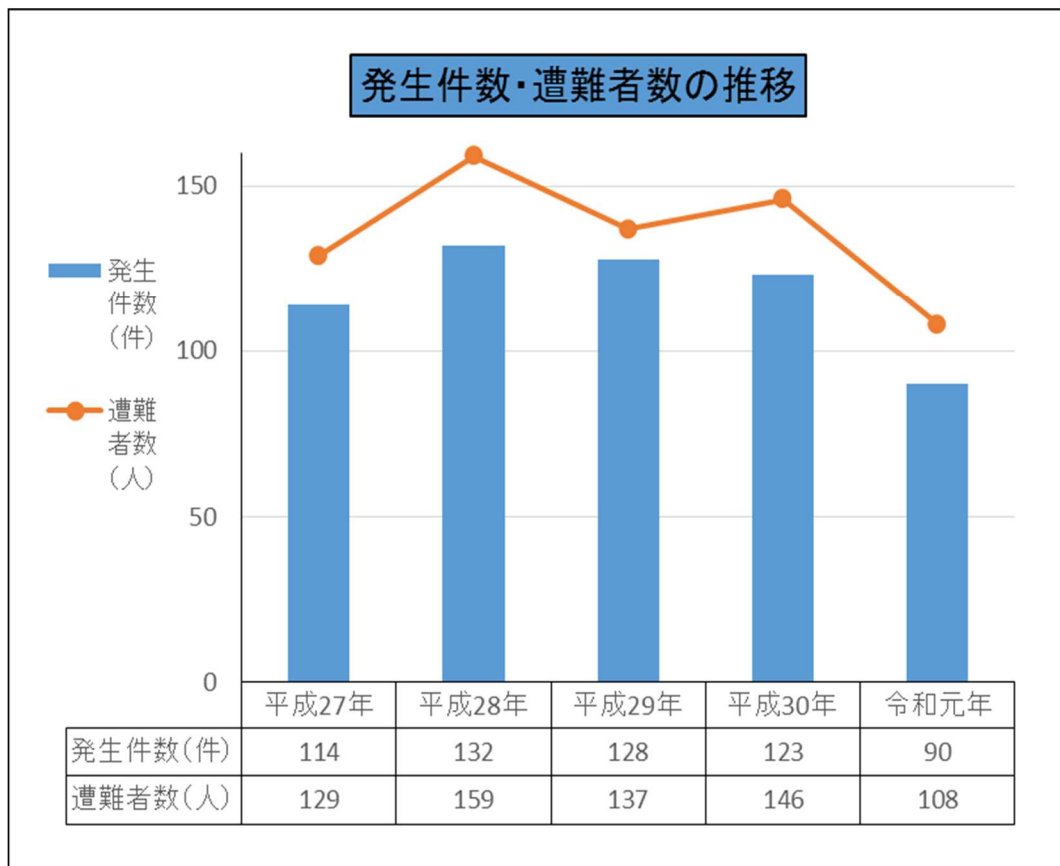
また、負傷部位や程度によって救助に使用する機材が変わるため、状況を最も分かっている本人の連絡が最適である。

### 3 山岳遭難発生状況（項目別）

#### (1) 過去5年の発生状況（表）

区分	発生件数 (件)	遭難者数					
		(人)	死亡	行方不明	重傷	軽傷	無事救出
令和元年	90	108	5	1	24	15	63
平成30年	123	146	11	3	17	35	80
平成29年	128	137	7	2	25	30	73
平成28年	132	159	6	0	21	35	97
平成27年	114	129	8	3	21	27	70
過去5年平均	117.4	135.8	7.4	1.8	21.6	28.4	76.6

#### (2) 過去5年の発生状況（グラフ）



## (3) 山系別発生状況

区分	発生件数 (件)	(人)	遭 難 者 数					
			死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出	
					重傷	軽傷		
合 計	90	108	5	1	24	15	63	
前年比	-33	-38	-6	-2	+7	-20	-17	
富士山	富士宮口	26	27			12	6	9
	須走口	10	11			3	2	6
	御殿場口	11	16	1		1	2	12
	その他	6	7	1		1		5
	小 計	53	61	2		17	10	32
	前年比	-15	-24	-4	-1	+6	-11	-14
南アルプス	聖岳	2	2					2
	赤石岳	3	3			1		2
	荒川岳	1	1					1
	南ア・その他	6	6	1		1	1	3
	小 計	12	12	1		2	1	8
	前年比	-9	-9	±0	-2	±0	-7	±0
その他	安倍山系	8	13			1	4	8
	天城山系	2	4					4
	愛鷹山系	2	3					3
	天子山系	4	6	1		2		3
	北遠山系	2	2		1			1
	奥大井山系							
	その他	7	7	1		2		4
	小 計	25	35	2	1	5	4	23
前年比	-9	-5	-2	+1	+1	-2	-3	

※ 富士山・その他

富士山頂のお鉢巡りや宝永火口付近及び各五合目より標高が低い場所をいう。

## (4) 目的別発生状況

区分	発生 件数 (件)	遭 難 者 数					
		(人)	死亡	行方不明	負 傷		無事救出
					重傷	軽傷	
合 計	90	108	5	1	24	15	63
登 山	85	103	3	1	24	15	60
登山	81	94	3	1	23	13	54
ハイキング	4	9			1	2	6
スキー登山							
沢 登 り							
岩 登 り							
山菜・茸採り	2	2					2
そ の 他	3	3	2				1
観 光							
作 業							
溪流釣り	1	1	1				
写真撮影							
自然鑑賞							
山岳信仰							
狩 猟							
ス キ ー							
そ の 他	2	2	1				1
不 明							

## (5) 態様別発生状況

区分	発生 件数 (件)	遭 難 者 数						
		総数	死亡	行方不明	負 傷		無事救出	
					重傷	軽傷		
合 計	90	108	5	1	24	15	63	
転 倒	スリップ	11	11			8	3	
	バランス崩し	13	14			7	7	
	つまずき	2	2			2		
	浮き石踏み	1	1			1		
	小 計	27	28			18	10	
病 気	高山病	6	6					6
	心疾患	2	2	2				
	低体温症	5	6	1				5
	その他	3	3					3
	小 計	16	17	3				14
滑 落	スリップ	5	5	1		4		
	バランス崩し	3	3			2	1	
	つまずき	2	2				2	
	小 計	10	10	1		6	3	
疲 労	体力不足	15	21					21
	その他							
	小 計	15	21					21
道 迷 い	21	31		1		2	28	
不 明	1	1	1					

## (6) 年齢層別発生状況

区分	(人)	遭 難 者 数				
		死亡	行方不明	負 傷		無事救出
				重傷	軽傷	
合 計	108	5	1	24	15	63
10 歳 未 満	3					3
10 ～ 19	6				2	4
20 ～ 29	5			2	2	1
30 ～ 39	19	1		5	4	9
40 ～ 49	12	1		2		9
50 ～ 59	26	1		7	2	16
60 ～ 69	19			5	3	11
70 ～ 79	15	1		3	2	9
80 歳 以 上	3	1	1			1

## (7) 居住地別発生状況

区分	遭 難 者 数					
	(人)	死亡	行方不明	負 傷		無事救出
				重傷	軽傷	
合 計	108	5	1	24	15	63
静岡県	41	1		8	7	25
県外居住	54	3	1	14	5	31
国外居住	13	1		2	3	7

## (8) 国籍別

区分	遭 難 者 数					
	(人)	死亡	行方不明	負 傷		無事救出
				重傷	軽傷	
合 計	108	5	1	24	15	63
日本	92	4	1	21	11	55
外国	16	1		3	4	8

## (9) パーティーの人数別

区 分	発生 件数 (件)	遭 難 者 数					
		(人)	死亡	行方不明	負 傷		無事救出
					重傷	軽傷	
合 計	90	108	5	1	24	15	63
単 独	35	35	4	1	11	1	18
2 人	23	29	1		4	4	20
3 人	9	11			2	3	6
4～9人	11	18			3	4	11
10人以上	12	15			4	3	8



## (10) 月別発生状況

区分	発生 件数 (件)	遭 難 者 数					
		(人)	死亡	行方不明	負 傷		無事救出
					重傷	軽傷	
合 計	90	108	5	1	24	15	63
1月	3	3			3		
2月	3	4				1	3
3月	1	1					1
4月	3	4					4
5月	3	3		1	1		1
6月	3	3	1				2
7月	22	28	1		9	4	14
8月	36	40			8	5	27
9月	6	7			1	2	4
10月	4	5	1			1	3
11月	4	4	1		2		1
12月	2	6	1			2	3